

令和5年度 浜松市生活支援体制づくり第1層協議体（第3回）議事録

日時：令和6年3月25日(月)10時00分から11時30分

場所：浜松市福祉交流センター3階特別会議室

出席者：委員8名、高齢者福祉課2名、事務局3名、計13名

1. 開会

2. あいさつ：

3. 前回の振り返り

①令和5年度 第1層協議体 議事録等について

配布資料に基づき、第1層SCから前回の協議体会議の説明を行った。

【意見・質問など】

特になし

4. 協議事項

①住民主体による外出支援サービス展開に向けた市域の取組について

配布資料に基づき、第1層SCより他市で実施している外出支援サービスヒアリング、令和5年度生活支援フォーラムアンケート結果について報告。

【意見・質問など】

意見：移動支援について、色んな範囲（地区社協や町内）などがあると思うが、やりたいと思う地区があればまずはやってみる、それに対して市としても応援しますよという姿勢が必要だと思う。

意見：〈第1層SC〉前々回、前回と移動支援の会議を行ってきたが、市域では地域差が大きい中で浜北の生活支援コーディネーターに情報提供をもらい、課題の分析、地域では何ができるのか協議してきた。論点として、事故リスクと不安の軽減という具体的なものがでてきた。ある程度エリアを絞った協議は有効だったように感じる。浜北の協議体会議でも保険の内容についてももう少し詳細を知りたいと声があがった。

意見：高齢者の外出がバス路線の減少や地理的な問題で増えていることは確か。自由に行くところに連れていきますではなく、行先をある程度指定する、巡回バスの代替案としての移動支援があってもいいと感じる。

意見：自分の地域では、NPO法人が福祉有償運送で病院や買い物などを支援してくれるサービスを提供している。利用できる方は限られるが、非常に便利なサービスだと感じている。

意見：移動支援は大きく2つに分類できると思う。1つ目は、路線型のような巡回型。ポイントからポイントの移動を支援する。2つ目は、タクシー型のように自由に移動ができるもの。地域の実情とリスクを整理して提案していくこともいいのではないかと思う。

意見：〈第1層 SC〉浜北の協議体会議でも、ヒアリングについて報告を行い事故のリスクなどを考慮して公共交通の充実やコミュニティバスの話が多く挙がったが、実際の地域ニーズとしては、通院や買い物のようなタクシー型が求められている印象であった。

意見：住民主体サービスの概念をどう規定するか。まず、福祉有償運送のような制度スキームでもなく、公共交通の代替措置として資金が投入されるものでもないこと、住民主体で支援を行うことを前提とすることも必要かと思われる。

生活支援体制事業の介護予防の部分にも焦点を当て

例えば、介護保険制度の介護サービス量が減少し、月に4回通っていたデイサービスを3回に減らさなければいけない。公的サービスの代替措置としてサロンが期待されているとするのならば、通院や買物の移動サービスももちろん重要だが、いかに参加しやすくするかも重要になってくる。

磐田市や静岡市の事例は事業のスキームがあつてのこと。浜松にはない前提で、住民主体サービスで取り組める範囲の枠組みがあつた方がいいのではないかと思う。

意見：情報として集まってきたものをモデル化することにより、共通認識をもって話合ができる。先ほどまでの話しを聞いて、課題解決中心ではなく、健康が促進されるような、生活が良くなるような観点も必要かと思う。

意見：移動支援と一言と言っても、地域の状況や社会資源により協議のポイントが変わる。地域に沿った論点の整理が重要。

意見：互助活動をテーマに協議をしてきて、改めてアンケートや第2層協議体会議の内容などを分析していく必要性を感じた。

意見：〈第1層 SC〉今回いただいた意見を踏まえて、第2層 SC と共有を行い、協議体内外でもしっかりと検討していきます。

②今期(令和3年度から令和5年度)における第1層協議体の取組状況について
資料に基づき3年間の協議内容の報告、来年度以降の第1層協議体の取組事項について説明

意見・質問など

意見：〈第1層 SC〉担い手の確保について、多くの圏域の協議体や令和3、4年度に地区社協支援強化に向けた検討会でも課題として挙がっている。一言で担い手不足と言っても、各団体の運営者がいない、活動者がいないなど様々。担い手がないため、今活動を担っている人の負担が多くなり、それを見た方が大変そうだから参加したくないと感じてしまうこともあると思われる。

今後、【担い手】に焦点を当て、協議していく必要性も感じる。

意見：以前地域の会合に、一般の住民が参加し色々なアイデアを出してくれた。そういった方の意見をもっと地区社協などが吸い上げて、活動に活かしていく必要があると思う。

意見：介護保険事業所も人手不足と以前から言われている。特に元気な高齢者、60代、70代の方は本当に欲しいと思う人材。我々も欲しいし、地域も必要としている。

送迎に関しても、多くの事業所で行っており人材の確保が非常に難しくなっている。地域で行う移動サービスと取り合いになってしまう。地域と事業所との繋がりや、有効活用について議論していく必要も感じる。

意見：他市では、移動スーパーの連絡会を行っているところもある。テーマに沿った、事業者連絡会という取組みも検討できるかもしれない。

意見：地域に来ている移動スーパー後にそのままサロンを開催しようと意見がでていいる。そのあたりの地域の声を吸い上げて支援をしてもらいたい。

意見：移動スーパーが来ていたが、売り上げが少なく撤退をしてしまったことがあった。おそらく公共交通も同じで、利用者が少なくなれば採算が取れなくなり撤退することになってしまう。住民にもそのあたりを理解して利用してほしいと思う。

意見：1日の売上がどの程度あれば存続が可能なのかも重要になる。移動スーパーを呼ぶ側も場所の選定などしっかり考えることが大事。

意見：今までの振り返りも含めて、移動スーパーや外出サービスはある意味矛盾をしている。どんな場合は移動スーパーなのか、どんな場合は外出サービスなのかを判断できるようにする必要があり、提案する側もしっかりと検討することも必要。

意見：浜松市全体で、第1層協議体（市域）で何かやるということは難しい。自ずと、第2層圏域や地区社協圏域での活動になってくる。そのなかで、どの事業が適切なのか整理していく必要がある。今後益々増えてくるであろうニーズに対し、社会保険制度はどんどん先細りしていくことが想定される。そんな中で、地域として何ができるのか、どんな準備をしておくのがいいか検討できたらいい。

意見：今後の検討事項として、情報というのが1つキーワードになるように感じる。生成AIを利用し、アンケートを要約させるともっと活用しやすい情報になると思う。国でもデジタルに関する政策が動いている。例えば、協働センターまで移動支援を行い、そこで買い物や遠隔医療を受けられるサービス提供などを行う。実現できれば、課題解決につながる可能性を感じる。そういったシステム提案も検討できたらと思う。

意見：〈第1層SC〉令和3年～令和5年にかけて、具体的にエリアやテーマを絞ったことにより論点が整理された。地域によってアプローチ、課題も異なることから引き続き、課題を分析しながらどんな取組みができるか議論をしていきたい。

5. 報告事項・連絡事項

- ①地域づくりのためのコミュニケーション勉強会について
- ②浜松市生活支援体制づくり第1層協議体委員の改選について
- ③その他

6. 閉会：